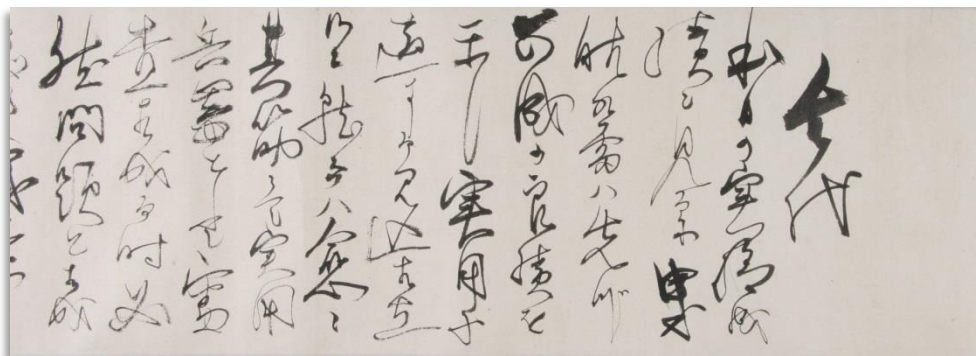
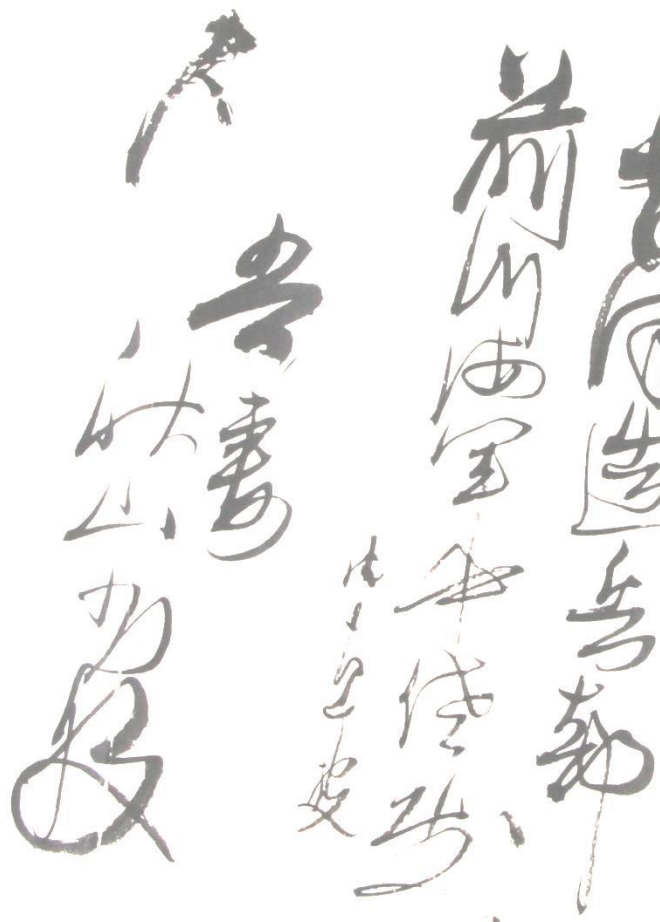


特別展示

海軍少将時代の 秋山真之書簡

2016年3月8日(火)

～6月26日(日) 予定



前川義一あて秋山真之書簡（大正6年3月14日）〈個人蔵〉



海軍少将時代の真之
〈個人蔵〉

☆おもな展示資料☆

- ・ 我妻懋あて秋山真之書簡（大正4年10月18日）＊初公開
- ・ 平岡貞一あて秋山真之書簡（大正6年1月26日）＊初公開
- ・ 前川義一あて秋山真之書簡（大正6年3月14日）＊初公開
- ・ 前川義一あて秋山真之書簡（大正6年6月5日）＊初公開
- ・ 秋山真之書「一大謂之天」（大正5年）＊初公開
- ・ 秋山真之筆「玄々相摩天地位陰陽相和萬物育」（大正4年）

☆展示場所☆

坂の上の雲ミュージアム4階展示室2「『坂の上の雲』三人の主人公」コーナー

特別展示 海軍少将時代の秋山真之書簡

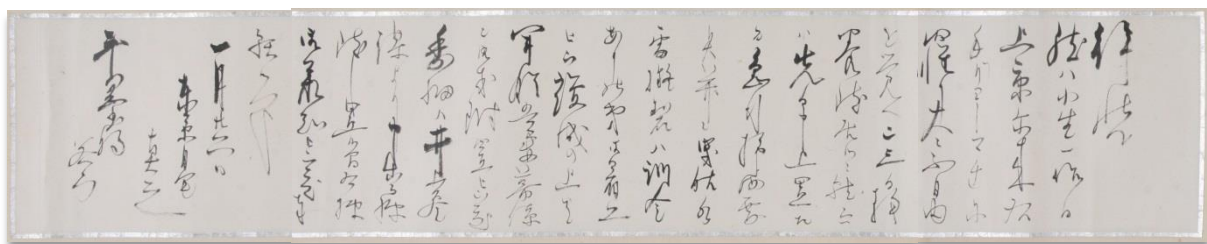
1886（明治19）年秋、18歳の秋山真之は正岡子規とともに通った東京大学予備門を退学し、海軍の道に進みました。海軍兵学校を首席で卒業後、真之は海外派遣や日清戦争、米国留学、海軍大学校での戦術担当教官等を経験し、36歳で日露戦争を迎えます。連合艦隊の作戦参謀としてのぞんだ日露戦争における日本海海戦での功績から、海軍の名参謀として国内外でその名が知られるようになりました。海軍軍人としての大仕事をひとつ終えた真之は、その後どのような人生を送ったのでしょうか。

近年、日露戦争後の真之の歩みを伝える書簡4点の存在が明らかとなりました。いずれも海軍少将時代の真之が書いた手紙です。1914（大正3）年7月に勃発した第一次世界大戦によって世の中が大きくかわろうとするなか、真之は大正5年ころから体調がおもわしくなく、大正6年春からは通常勤務が難しくなります。書簡やこの時期の記録からは、海軍軍人としての真之が日本の将来のためにいま何をすべきかを懸命に考えていた様子が見えてきます。

今回の特別展示「海軍少将時代の秋山真之書簡」では、初公開となる書簡4点を中心に、写真、書、記録などを展示し、晩年の真之の思索や行動のあとをたどります。



秋山真之書
〈個人蔵〉



平岡貞一あて秋山真之書簡（大正6年1月26日）〈個人蔵〉

坂の上の雲ミュージアム SAKA NO UE NO KUMO MUSEUM

〒790-0001 愛媛県松山市一番町三丁目20番地
TEL：089-915-2600 / FAX：089-915-3600
E-mail：saka-museum@city.matsuyama.ehime.jp
URL：http://www.sakanouenokumomuseum.jp/

